

## 歴史と街づくり活動の経緯

### (1) 桂ヶ丘の歴史

岐阜県可児市にある桂ヶ丘団地は、桜ヶ丘ハイツ（桜ヶ丘、皐ヶ丘、桂ヶ丘）の3つの団地の中の一つとして1990年代初め頃から造成が開始されました。

「自然豊かで閑静な美しいまち・住み続けることができる魅力的なまち」を目指して取り組んできています。まちの代表的な特徴は、次のとおりです。

- ・ 開発事業者による石積みの住宅地で1区画が230m<sup>2</sup>以上である。
- ・ 道路と宅地の間に1m以上セットバックした部分にオープンスペース「フレンドリーガーデン」に各自が芝生や草木花などを植栽している。
- ・ 桂ヶ丘の外周道路と中央のバス通りには芝生の歩道があります。



フレンドリーガーデン



芝生の歩道

入居は1994年から始まり、2004年頃から急激に入居世帯が増加し、現在、ほぼ90%以上の入居率で、430世帯、1359人が暮らしています。

開発当初から住宅地内に帝京大学可児高等学校中学校が併設されている文教地区で、2012年度には同小学校も併設されました。

桂ヶ丘自治会は、1995年4月に発足。開発当初からの地区計画に基づき「まちなみづくり」に傾注してきました。2007年と2009年に自治会・住民主導で地区計画の見直しも実施しています。

## (2) 住まいのまちなみづくり活動の経緯

### ①概要

入居開始当初の住民が、開発者の計画したまちの代表的な特徴を維持管理していくことと住民相互の親睦を目的に、年4回の景観維持活動を実施、自治会による芝刈り機購入、住民有志による芝刈りなどを継続してきました。こうした活動から、月1回の芝生刈りや清掃活動を行う「かにロードサポーター」、住宅地内にある未整備の公園を整備しようという団体である「わくわくワークス」が誕生し、住まいの維持管理活動が発展してきました。また、自治会による防犯灯管理、高齢者間の交流会、桂ヶ丘わくわく秋祭り開催などの活動も行われるようになりました。

### ②維持活動

- ・年4回景観維持活動  
毎回400名以上の住民の参加。
- ・月1回の芝生刈りや清掃活動  
住民の中での、かにロードサポーターの組織を可児市に登録し活動。  
会社勤めをしながらのメンバーが大半を占めています。
- ・未整備小公園の整備  
可児市との協働まちづくり事業の認定を受け平成22年度より10箇所の小公園のうち、3年間で4つの未整備公園づくりを実施。  
住民有志による「桂ヶ丘公園づくり わくわくワークス」を立ち上げ、毎月第3日曜日を定例で整備活動を実施。これにあわせて可児市にある植栽選定、レイアウトなどの専門知識に精通している「岐阜県立国際園芸アカデミー」の教授、学生との交流・支援を受けて実施しています。



平成22年度小公園整備前



平成22年度整備作業

### ③防犯灯管理

防犯灯管理は、入居開始以降、桜ヶ丘ハイツの3つの自治連合会合同で管理を外部委託していましたが、平成23年度より各自治会が防犯灯管理規則を定め、管理をしていく活動を開始しました。

住宅地内にある約160箇所の防犯灯の管理を行っていますが、今後、住民の意向を確認し、必要な個所への設置など更なる防犯に積極的に取り組んでいます。

### ④高齢者間の交流

入居等から世帯数が増えてきましたが、高齢者間の集っておしゃべりなどをする場の提供が遅れていたため、平成23年度に自治会と民生委員及び自治会を支援している高齢者が中心となり、自治会集会所を利用して、住宅地内60歳以上の180名を対象に「桂ヶ丘おしゃべりサロン」活動を開始。

最近では、親、子、孫の3世代で参加していただける方も見え、世代を超えたメンバーでの親睦を深めています。開催は月1回で、お菓子、小物入れボックス、クリスマスリース、レンガへのペイント絵描きなど、地区内にはいろいろな特技を持ち合わせた方々の協力を得ながら活動を継続しています。